



令和3年1月15日

枚方寝屋川消防組合

令和2年消防統計

本消防組合における、令和2年（1月から12月まで）の消防統計の速報値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

新型コロナウイルスの影響により、119番通報、火災件数、救急件数、救助件数がいずれも減少しています。

1 119番通報について（※交野市を含む）

枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体の119番通報件数は59,901件で、前年（66,262件）より6,361件減少しました。

2 火災について

火災件数は147件（枚方市98件、寝屋川市49件）で、前年（167件）より20件減少しました。

この件数は、昭和37年の117件（枚方市71件、寝屋川市46件）以来の少なさとなります。

火災による死者は6人（枚方市4人、寝屋川市2人）で、前年（5人）より1人増加しています。

出火原因は「電気関係」が32件で1位となり、昭和63年から32年連続で1位だった「放火（疑い含む）」は22件で第2位でした。

3 救急について

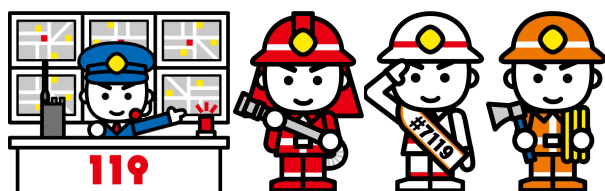
救急出動件数は34,732件で、前年（37,927件）より3,195件減少し、救急搬送人員は30,908人で、前年（34,207人）より3,299人減少しました。

新型コロナウイルス感染症関連の搬送件数は490件で、そのうち感染者の搬送は191件でした。

4 救助について

救助出動件数は254件で、前年（240件）より14件増加しています。

※ 詳細については別添のとおりです。



【問い合わせ先】

枚方寝屋川消防組合

情報指令課 TEL 072-852-9806

警防課 TEL 072-852-9917

救急課 TEL 072-852-9918

総務管理課（広報） TEL 072-852-9903

119番通報の主な特徴

1 119番通報は指令センター全体で約6,300件減少

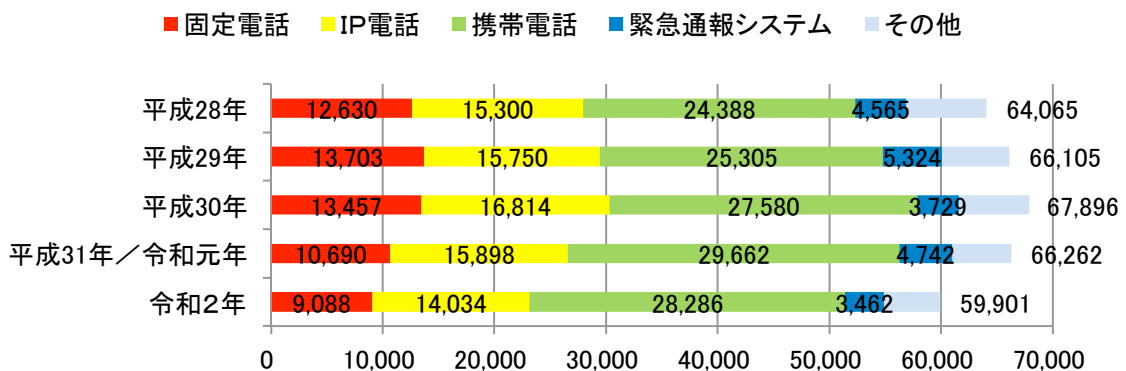
令和2年の問い合わせ等を含めた119番通報は55,185件で、前年(61,085件)より5,900件減少しました。

これは、枚方市・寝屋川市の市民の約11人に1人が119番通報をしたこととなります。

また、指令業務を共同運用している交野市からの通報は4,716件で、枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体では59,901件(1日平均約164件)となり、前年(66,262件)より6,361件減少しました。

※ 平成27年7月から、枚方寝屋川消防組合と交野市消防本部において消防指令業務の共同運用を行っています。

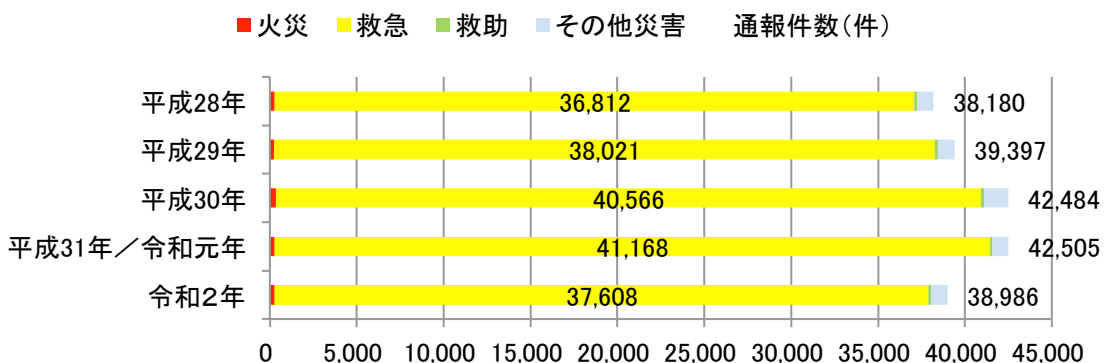
回線別の受信件数の構成比の5年ごとの推移



2 119番通報のうち約6割が救急関係 ※交野市を含む

119番通報のうち、災害事案に関する通報は38,986件で、前年(42,505件)より3,519件減少しています。「救急関係」の通報も減少し、37,608件でしたが、通報全体の約6割を占めています。

119番通報(災害事案)の構成比の5年ごとの推移

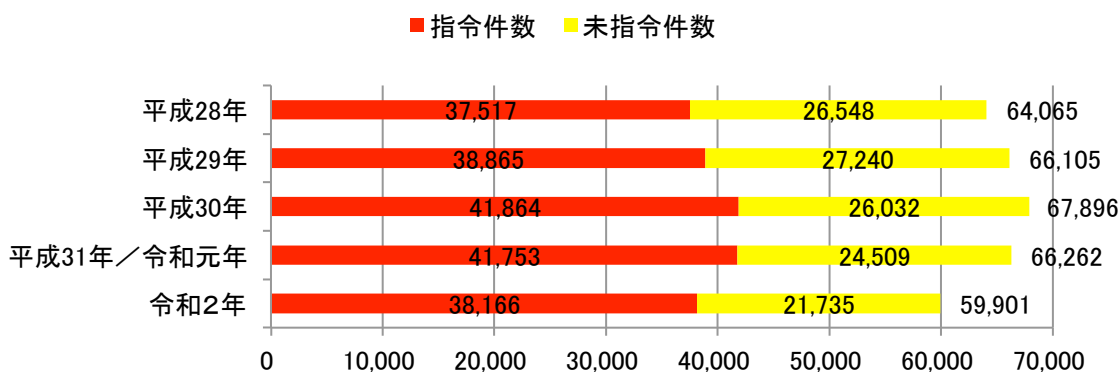


3 出動指令を出した事案は全体の約6割 ※交野市を含む

119番通報に対して実際に出動指令を出した事案は38,166件で、通報件数に対する割合は約6割で、前年(41,753件)より3,587件減少しています。

「各種問い合わせ」、「悪戯」、「間違い」などの緊急性のない通報は20,273件と前年(23,102件)より2,829件減少しましたが約3割あり、前年と同様の比率でした。(残りの約1割は試験、他市への転送等。)

出動指令件数と未指令件数の構成比の5年ごとの推移



4 救急車が到着するまでの間の応急手当を口頭で指導

救命率向上のために、救急車が到着するまでの間、通報者から傷病者の状態を聴取し、心肺蘇生法などを口頭で指導しています。

令和2年の指令センターからの口頭指導の件数は471件で、そのうち「心肺蘇生(胸骨圧迫、人工呼吸)」398件(「AED」15件を含む)、「その他(異物除去、止血法、熱傷手当等)」27件となっています。(重複あり。)

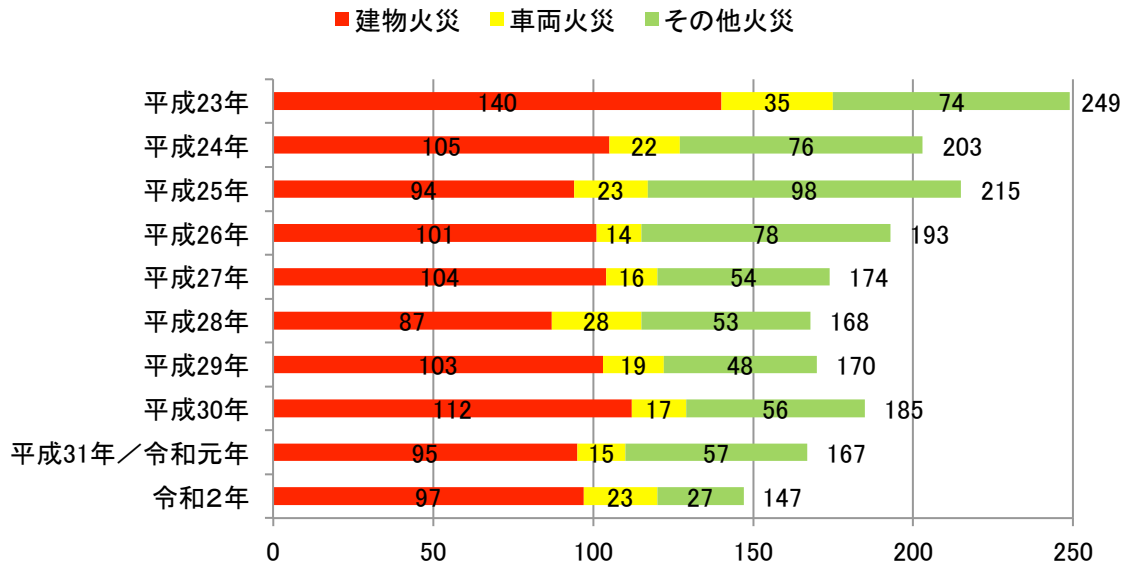
また、救急現場においてバイスタンダー(居合わせた方)による心肺蘇生等が大変重要になります。本消防組合では、救急活動に協力して下さった方に対して感謝の気持ちを込めて「勇気こころのカード」を配布しています。

火災の主な特徴

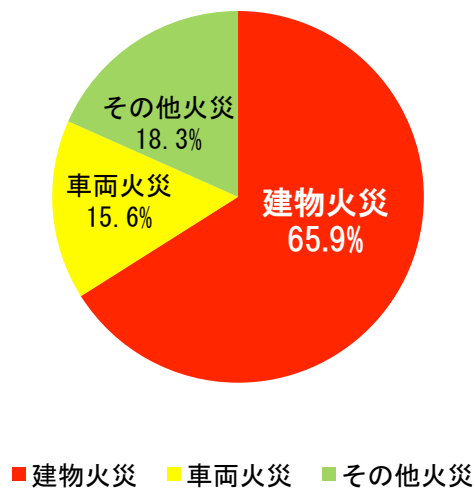
1 火災件数は147件で前年より20件減少

令和2年の火災件数は147件（枚方市98件、寝屋川市49件）で、前年（167件）より20件減少しており、過去10年間で最少件数となりました。

火災件数と火災種別の構成比の10年ごとの推移



火災種別の構成比

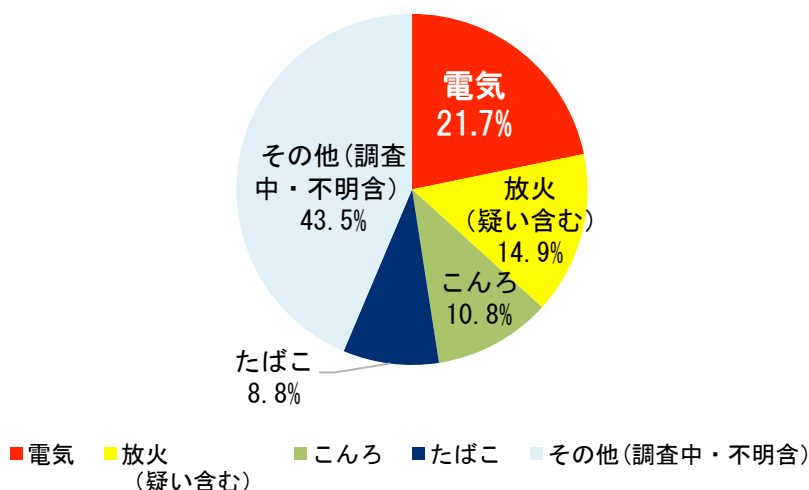


2 出火原因 1位「電気関係」、2位「放火（疑い含む）」、3位「こんろ」

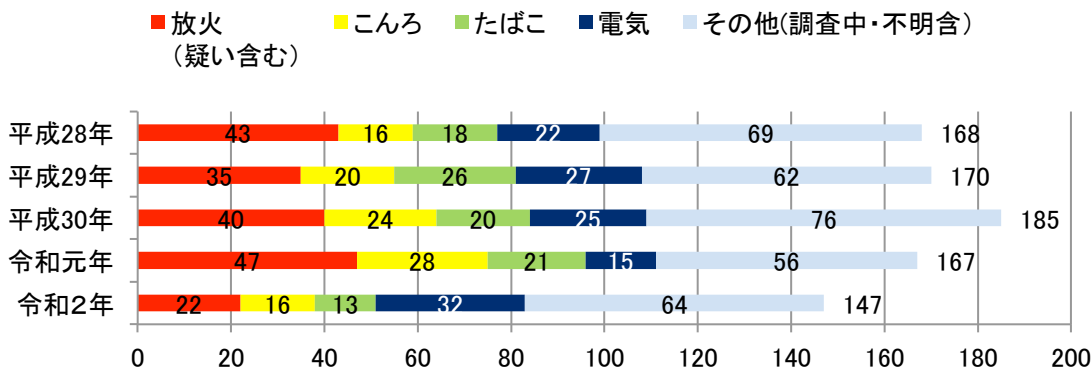
出火原因別に見ると、1位「電気関係」32件（21.7%）、2位「放火（疑い含む）」22件（14.9%）、3位「こんろ」16件（10.8%）、4位「たばこ」13件（8.8%）の順となっています。

「放火（疑いを含む）」は、昭和63年から32年連続で出火原因の1位でしたが、令和2年は「電気」が1位となりました。

主な出火原因の構成比



主な出火原因の構成比の5年ごとの推移



3 火災による死者は6人、負傷者は24人

火災による死者は6人（枚方市4人、寝屋川市2人）で、前年より1人増加しました。

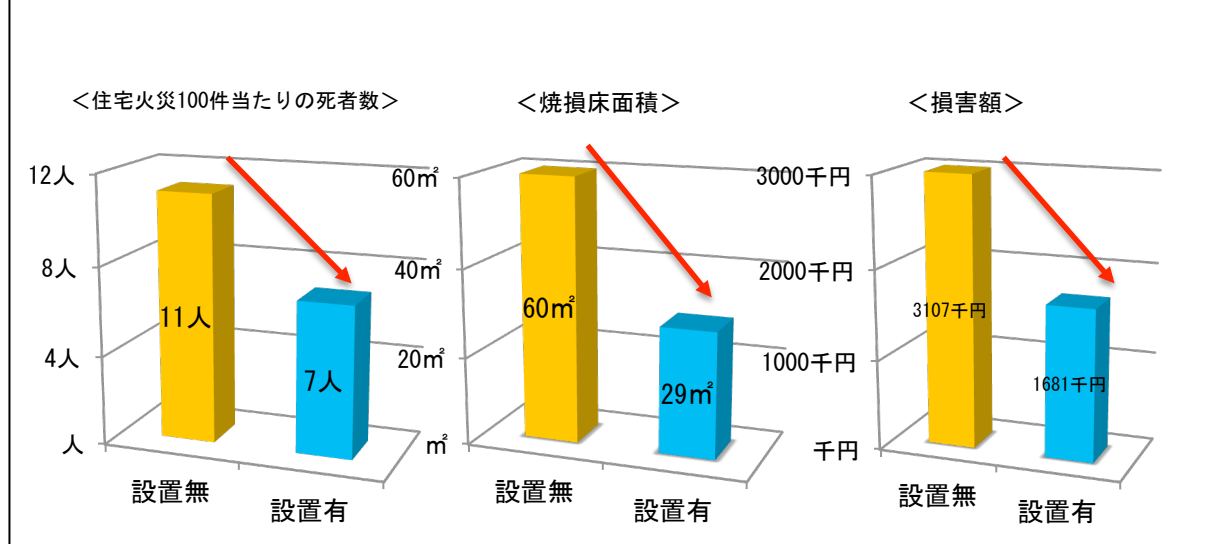
死者6人のうち住宅火災によるものが5人で、そのうち4人が65歳以上の高齢者でした。

負傷者は24人（枚方市13人、寝屋川市11人）で、前年（75人）より51人減少しています。

4 住宅用火災警報器について

住宅用火災警報器を設置することで火災発生時の死亡リスクや損失の拡大リスクが大幅に減少しています。

【参考】平成28年から平成30年までの3年間における失火を原因とした住宅火災について、住宅用火災警報器の効果进行分析した結果、住宅用火災警報器を設置している場合は死者数が4割減、焼損床面積と損害額が概ね半減したことがわかりました。



住宅火災から命をまもるために、住宅用火災警報器を設置しましょう。

また、いざという時に住宅用火災警報器が正常に作動するよう、定期的に作動確認を行いましょう。

救急の主な特徴

1 救急出動件数、救急搬送人員がともに減少

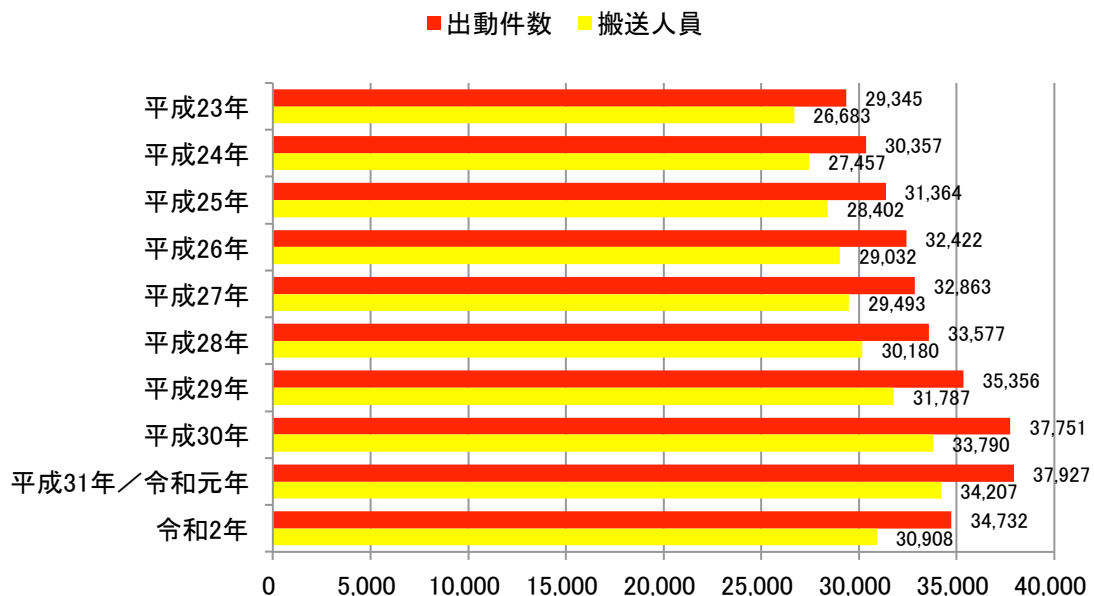
令和2年の救急出動件数は34,732件（枚方市20,845件、寝屋川市13,780件、その他107件）で、前年（37,927件）より3,195件（8.4%）減少しました。

救急搬送人員は30,908人（枚方市18,520人、寝屋川市12,323人、その他65人）で、前年（34,207人）より3,299人（9.6%）減少となっており、新型コロナウイルス関連による外出自粛や病院の受診控えの可能性が考えられます。

1日の平均出動件数は約95件で、救急隊1隊あたりの1日の出動件数は約5.6件となっています。

※ その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

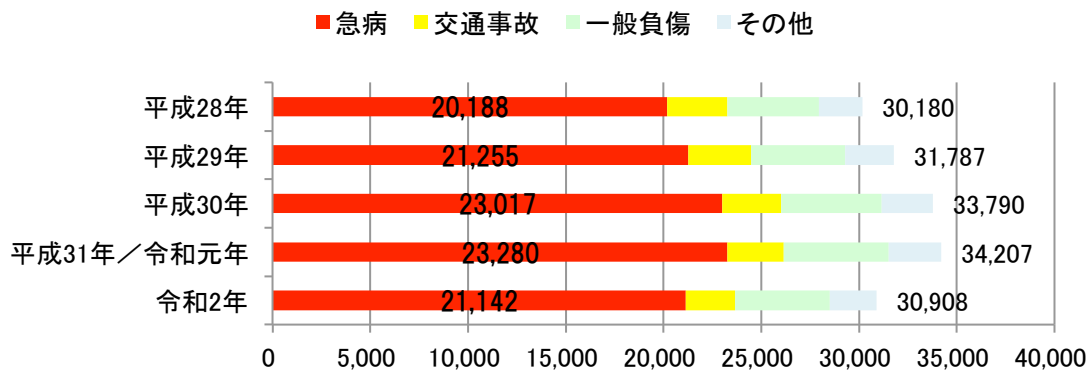
救急出動件数及び搬送人員の10年間の推移



2 事故種別救急搬送 1位「急病」、2位「一般負傷」、3位「交通事故」

事故種別ごとの救急搬送人員は、1位「急病」21,142人（68.4%）、2位「一般負傷」4,847人（15.7%）、3位「交通事故」2,523人（8.2%）の順となっています。

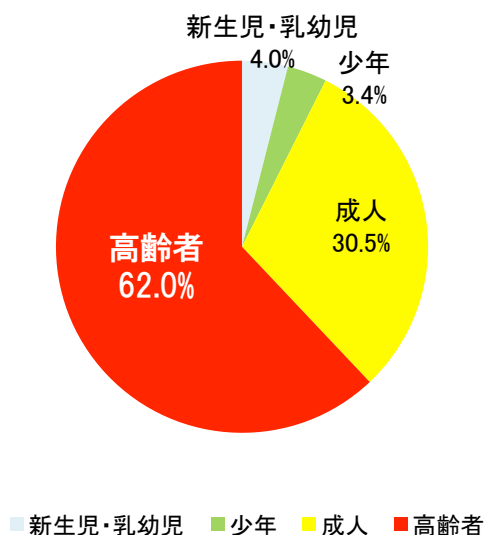
事故種別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



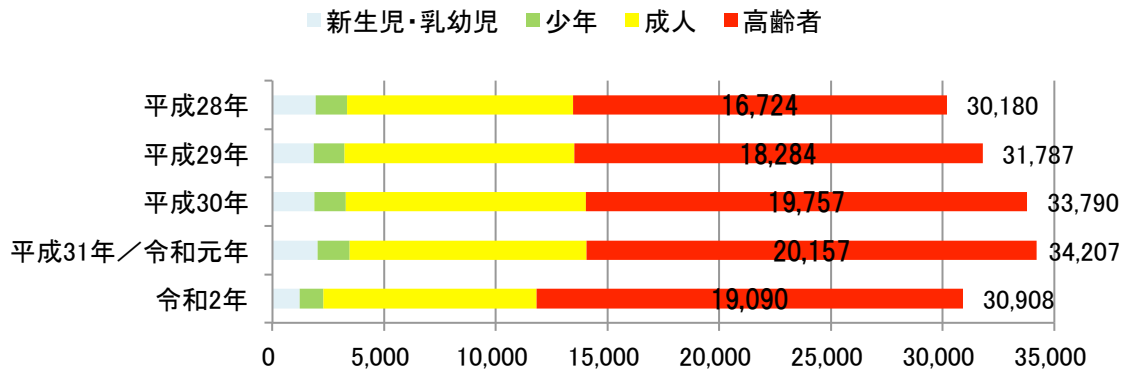
3 救急搬送人員の約6割が65歳以上の高齢者

年齢区分別による搬送人員は、65歳以上の高齢者が19,090人で、全体の約6割を占めています。

年齢区分別の搬送人員の構成比

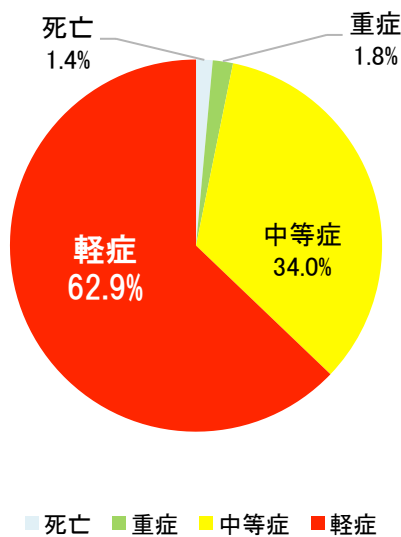


年齢区別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移

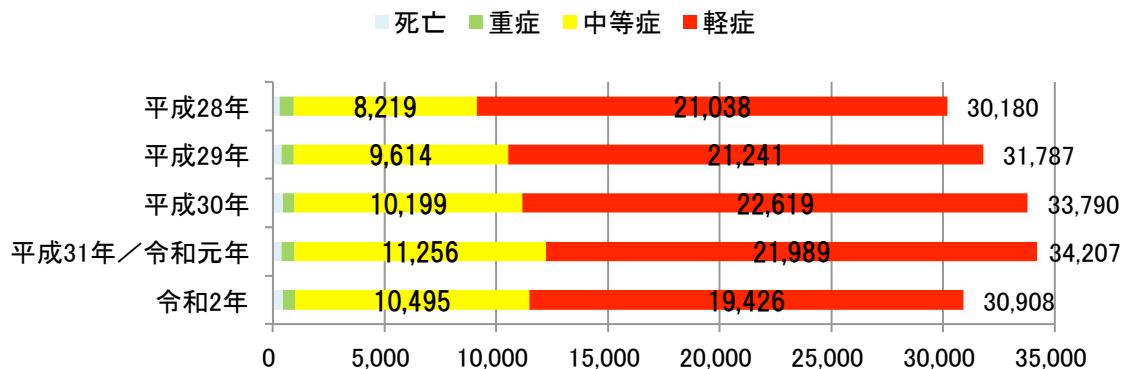


4 救急搬送人員の約6割が軽症者

症度別による搬送人員は、軽症者が19,426人で、全体の約6割を占めています。



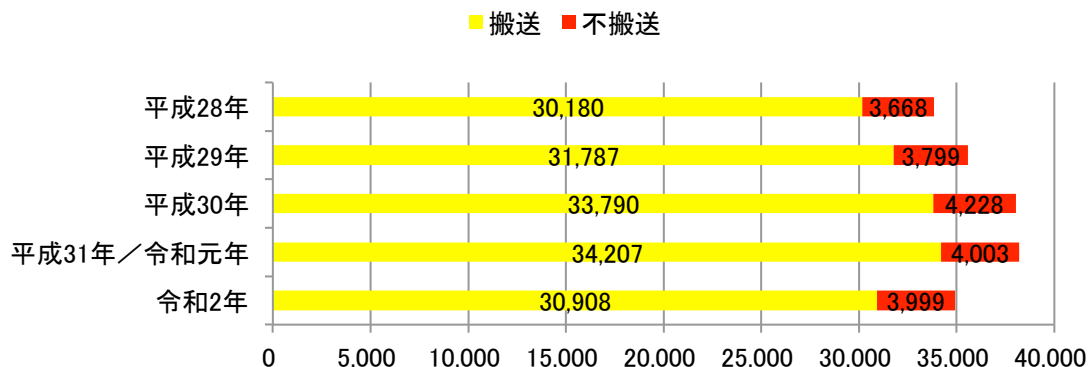
症度別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



5 救急出動全体の約1割は不搬送、そのうち約7割は搬送拒否

不搬送には現場処置、死亡が確認できる状態の場合や医師搬送のための理由もありますが、約7割は救急車で搬送を拒否、誤報、悪戯、酩酊等が占めています。

搬送数と不搬送数の構成比の5年ごとの推移



6 ドクターカー出動件数

平成29年4月から救命率の向上を図るために、医師が救急車に同乗し、救急現場にて医療行為を行うドクターカーを運用しています。(平日の9時～17時まで)

令和2年の出動件数は393件(枚方市233件、寝屋川市131件、その他29件)で、1日の平均出動件数は約1.1件となっています。

事故種別では、1位「急病」290件(73.8%)、2位「一般負傷」49件(12.5%)、3位「労働災害」19件(4.8%)の順となっています。

ドクターカーの出動項目別では、「心肺停止」150件(38.2%)、「急性脳卒中」70件(17.8%)、「高エネルギー外傷(交通事故や高所からの転落)」36件(9.2%)となっています。

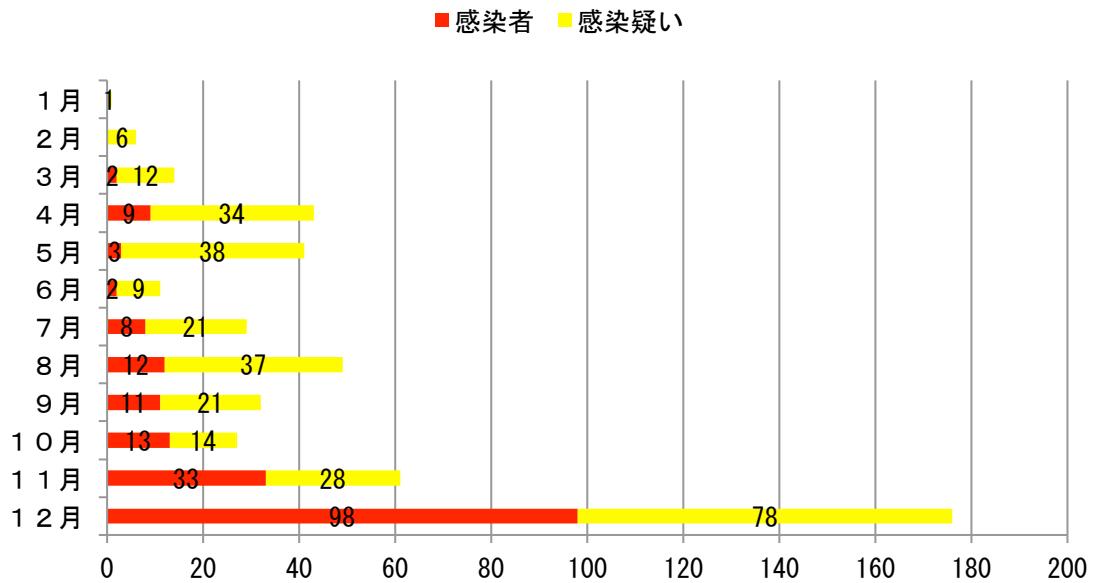
※ その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

7 新型コロナウイルス関連

新型コロナウイルス感染症関連の搬送件数は490件でした。そのうち感染者の搬送件数は191件、感染疑いの搬送件数は299件でした。

月別にみると、11月から感染者の搬送が増加し、12月には98人の感染者を搬送しました。

月別の新型コロナウイルス関連の搬送件数



救助の主な特徴

1 救助出動件数は14件増加（1日平均約0.7件の出動）

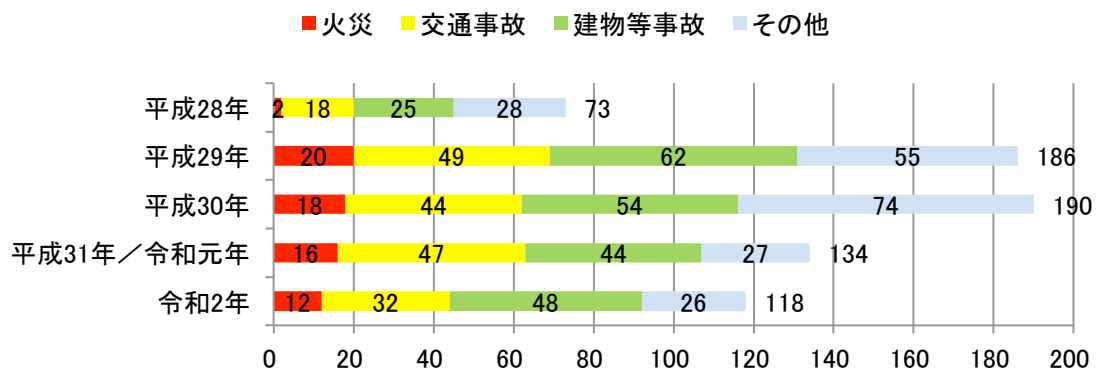
令和2年の救助出動件数は254件で、前年（240件）より14件増加しています。

そのうち、救助件数（救助者有の事案）は109件で、前年（115件）より6件減少しています。

2 救助人員は前年と比較して16人の減少

令和2年の救助人員は118人で、前年（134人）より16人減少しています。

事故種別の救助人員と構成比の5年ごとの推移



3 事故種別救助出動件数 1位「建物等の事故」、2位「火災」、3位「交通事故」

事故種別ごとの件数は、1位「建物等の事故」66件（26.0%）、2位「火災」63件（24.8%）、3位「交通事故」33件（13.0%）の順となっています。

事故種別の救助出動件数と構成比の5年ごとの推移

